

◆ はじめに ◆

フェリス女学院大学附属図書館 館長 藤本朝巳

大学図書館は、ルーティンとしての図書館業務を大切にしていますが、他にもさまざまな機能を果たすことが期待されています。フェリスの図書館も期待に応えるべく、学生の学修支援などに積極的に取り組んでいます。例えば、毎年ラーニング・コモンズの機能を備えたグループ学習室が授業、課外活動などによく活用されています。今や本学の図書館は多目的学習の場へと変わりつつあります。例えば、新入生向けには図書館利用や資料検索の説明、またパソコン使用の導入教育、さらに上級生向けに論文執筆支援などを情報センターと協力して毎年行っています。

本学図書館は、2002年度から「読書運動プロジェクト（読プロ）」に活発に取り組み、毎年、豊かな実りを結んでいます。この活動では、学生たちが主体的にテーマを決め、それに沿って数回の読書会を開くだけでなく、文学ゆかりの地訪問、選書ツアー（今年度は「今フェリス生が読みたい本」をコンセプトに学生メンバーが103点を選書）、「私のオススメ本（現代女性作家の作品）」の紹介・展示、他大学の図書館訪問と交流など、ユニークな企画を立てて実践しています。

今年の読プロのテーマは「さまざまな分野で活躍する現代女性作家」でした。前期読書運動科目「今年の一冊」では図書館長が中心となって、5名の専任教員と外部講師3名で、絵本、小説、物語を紹介し、また現代社会が抱える諸問題を複眼的な視点で学びました。さらに関連資料（現代女性作家の作品・資料など）の展示も重ねました。読プロとFLC（フェリス・ランチ・コミッティー）による学生食堂メニューの企画として、年間テーマにちなんで、現代女性作家の本や漫画に出てくるレシピを再現したことは楽しい催しでした。

11月の大学祭では、学生はもとより近隣の方にも多数ご来場いただき、図書館の入館者は2日間で1240人を超えました。大学祭では、「さまざまな分野で活躍する現代女性作家」展示、クイズ、朗読会、ワークショップ（「しおりの製作体験」168名参加）などを実施しました。

毎年行っている、夏の女子高校生への図書館開放にはのべ198名の利用があり、地域貢献の役割も果たしています。

読プロでは、今年も朗読チームの学生とOGすずの音のメンバーが近隣の小学校に出向き、全校児童に朗読を披露、1年生に音読の指導やアドバイスをを行い、神奈川近代文学館での朗読発表会を実施しました。「読み聞かせレッスン」では、読み聞かせに適した絵本の選び方から、手遊び歌・わらべ歌、読み聞かせの実践までを専門家に学び、その成果を、近隣小学校の朝読書の時間や泉区区役所主催の「読書推進活動」の場で披露しました。

今年も創作コンクール（小説・詩・戯曲）に14作もの優秀な作品の応募があり、戯曲部門では2作品が第2席を受賞しました。年を追うごとに、作品の質が上がっていると思います。

なお、図書館には学修支援のさらなる充実など大きな課題があり、社会の変化に対応できるように努力しております。また、増え続ける図書の設定空間も確保しなければなりません。皆様のご理解、ご協力を、どうぞよろしく願いいたします。